

1 はじめに

報道による世界の情報だけでなく、担任の見て来た生の世界の動きや様子を子供たちに伝えたいと考え、活動をし、授業を行ってきた。また、これまでの活動でカンボジア、日本、中国、インドで出会った人々や子供たちの大切なものを聞き、それをいろいろな国で伝え、人々の大切にしているものを互いに大切に考えていく気持ちが共生していく上で大事なことを理解してもらいたいと考えて実践してきた。

2 カンボジアについての授業

(1) 対象児童 小学校1年生 25人 (男子11人 女子14人)

(2) 実践教科 道徳、国語、学活、図工

(3) 実践の目的

①世界を知ろうについて

- ・ 日本と外国がつながりのある関係であることを理解する。
- ・ 外国の人と交流をもち、親睦を深める。

②大切なものを考えようについて

- ・ 今現在や将来の自分を見つめたり、日本のことを考えたりする。

③共に生きようについて

- ・ 国際交流でできることを考え、実践しようとする態度を養う。

(4) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
第1次 「いろいろな国 いろいろな挨拶」 日本とは違う国があること、いろいろなあいさつがあることを知る。 あいさつの大切さを考え、全校にあいさつを広めようとする態度を養う。 開発教育「富の分配」を体験することを通して、挨拶だけではなく、豊かさにも違いがあることを知る。	(1) マオリ族、ベルベル族、ジャマイカ等の挨拶をしている写真を見て、フォトラングエージを行い、世界にはいろいろなあいさつがあることを知る。 (2) 道徳「あいさつのきれいな王様」を学習し、挨拶をしようとする気持ちを高める。1年生が児童玄関前に立って挨拶運動を行う。全校に「あいさつの門」を配って、あいさつの呼びかけを行う。 (3) 紙を使って、「富の分配」を体験し、食べ物や水などでも世界の々では富んでいる国と貧しい国があることを知る。	・ 学校図書2年国語教科書 教材文「世界のあいさつ」 ・ 道徳教材文「あいさつのきれいな王様」紙芝居でする。 ・ 古紙1000枚
第2次 日本とカンボジア 「絵はがきが届いたよ」 カンボジアについての関心を高める。	(1) 担任から届いた絵はがきを全員が持ち寄り、絵葉書ラングエージを行い、想像したことや分かることを紹介。	・ 絵はがき25枚

「カンボジアにあった日本の物」 児童の身近にある日本の物がカンボジアに行っていることを知り、カンボジアとの関係が身近に感じられるようにする。	(2) フォトランゲージ、カンボジアB o xでカンボジアに日本の物や文化が入っていることを知る。	・ウルトラマンの写真、ピカチューのおかし、グランセイザーのおもちやの写真、カンボジア新聞の日本の首相の記事、アンコールワットに残る昔の日本人の記録など
第3次 「外国の人と仲良くなろう。」 カンボジアからの留学生やカナダやアメリカからのALTの先生と遊んだり、勉強をしたりすることを通して、外国の人と交流する。	(1) カナダ人のメリッサ先生から英語で挨拶の仕方を教えてもらう。 (2) カンボジアの女子高生マイさんと交流する。 ※ようこそダンス、インタビュー、ゲーム（カンボジアバスケット、だるまさんがころんだ） (3) ニューヨーク出身のブレンダン先生と交流する。 ※ようこそダンス、インタビュー、カラーカードゲーム	
第4次 「カンボジアってどんな国」 カンボジアの文化・生活を知る。	(1) 児童の興味から、下記のことについて学ぶ。 遊び →フォト、カンボジアB o x「サイ」 食べ物 →フォト、本、VTR 学校 →フォト、VTR (2) 伝統について学ぶ。 遺跡、彫刻 →フォト、VTR 踊り「アプサラ」→フォト、VTR、カンボジアB o x「飾り」 (3) 衣、住について学ぶ。 服装 →カンボジアB o x「クロマ、巻スカート、服、民族衣装キーホルダー10種類」 住居 →フォト ※自然条件にも触れる。 (4) 環境について学ぶ。 交通 →フォト、マスク ごみ山→フォト、VTR、	・いろいろな記録写真、VTR ・カンボジアB o xのいろいろな実物資料 ・カンボジアについてのメモ

第5次 「戦争と平和 戦争ってこわいな」 現在もなお戦争の影響の残るカンボジアの状況を知ったり、日本にも戦争をしていた時代に多くの悲しいできごとがあったことを知ったりすることを通して、平和の大切さと命の尊さについて考える。	(1) フォーコーナーを行うことで、戦争と平和についての意見交換を行う。 (2) 地雷で足を失った少年の写真でフォトランゲージを行ったり、絵本「地雷ではなく花をください①②」を読んだり、カンボジアの年齢別人口の割合を知ったりすることで、現在も続く困った状況を理解する。 ※ 人材がいない。親がいない。お金をかせげない。小学校へ行けない。行っても続けられない等。 (3) 本「かわいそうなぞう」を読み聞かせ、日本にも戦争を行っていた時代があることを知る。その後、戦争と平和についてのブックトークを行う。	・フォト ・絵本「地雷ではなく花をください」シリーズ①② ・カンボジアについてのメモ ・本「かわいそうなぞう」「かげおくり」「ピカのおちた日」等など
第6次 「大切なものは何ですか」 担任がカンボジアで出会った人々の大切な物や夢の話を聞き、自分の今大切なことは何だろうか、将来の夢は何だろうかを考えることを通して、自分を見つめる。	(1) カンボジアの人々の大切なことや将来の夢をスライドトーク形式で聞き、なぜそう思っているのか理由を想像する。 ※通訳のティーさん、ごみ山の子ども達、看護学校の1年生、トンレサップ湖のウルッルート君、バイヨンのニール様、プノンバケンで会った小学校の先生、タケオのスライパイちゃん、草取りしていた子ども達、HMB対象家族のスパット君、小学校の子ども達について ※ 必要であれば、写真集「あなたの大切なものは何ですか」も使う。 (2) 自分の今大切なこと、将来の夢を考える。 (3) 新聞の原稿に書き、紹介し合う。	・フォト ・カンボジアについてのメモ ・小学館写真集「あなたの大切なものは何ですか」 ・地方新聞新潟日報のコラム「将来の夢」の原稿
第7次 「カンボジアで日本人が活躍している」 カンボジアの復興のために様々な分野で日本人が支援に励んでいることを知る。	(1) 医療現場や農村、遺跡の修復などで日本人が支援していることがカンボジアの人から喜ばれていることをスライドトークで学習する。 (2) JICA新潟から出前講座をしてもらう。	・カンボジアBox「カンボジアのお金」にかいてある橋の工事
第8次 「つながりと発信」 国際交流で自分達にできることを考え、行う。 自分達のしていることを振り返り、身近な人に発信する。	(1) 自分達にできることって何だろうかを考えて行う。 (2) 自分達のしている国際交流を文や絵、写真などでまとめて、家の人や全校児童、地域の人に紹介する。	

(5) 実際の授業の様子

第1次 「いろいろな国 いろいろな挨拶」

いろいろな国のあいさつの様子を写真で提示した。子ども達は全て挨拶をしている様子だと分かり、とても驚き、興味をそそられていた。子ども達の感想は以下のとおりであった。・怒っているみたいだね。・あっかんべしたり、鼻をくっつけてあいさつなんて面白いよ。・やってみようよ。・なんであいさつするのか。その後の道徳「あいさつのきれいな王様」では、あいさつを禁止された町の人々の気持ちを想像し共感することを通して、あいさつの価値を感じ、毎朝児童玄関に立って全校児童にあいさつをしたり、くぐる時にはあいさつをする「あいさつの門」を作ってあいさつ運動を展開した。「富の分配」では世界の国々の豊かさに違いがあることを学び、「日本は幸せなんだね。分けてあげたいな。」などの感想をもった。

第2次 日本とカンボジア「絵はがきが届いたよ」「カンボジアにあった日本の物」

カンボジアで買って出した絵葉書を子ども達一人一人が持ち寄り、絵葉書ラングエージを行った。・なんで牛がやせているの。・この石で作った大きな顔はどこにあるの。・この子達はなんで裸なの。・お話聞かせて。などたくさん疑問をもち、カンボジアに対する興味を強くもった。その後担任がカンボジアで見つけた日本の物についてフォトラングエージを行った。・ウルトラマンやピカチュウがなんでカンボジアにあるの。きっとカンボジアでも人気なんだよ。グランセイザーって片仮名で書いてあるよ。読めない字もあるね。トヨタの車が多いね。僕の行ったロシアでもトヨタが多かったよ。何で非常口のマークは日本と同じなのかな。字が読めない人にも分かるようにしているんじゃないかな。など子ども達は自分達の身近なものがカンボジアにもあることを知り日本とカンボジアが関係のある国であることを感じていた。

第3次 「外国の人と仲良くなろう。」

「今週は外国の人に来てもらおうと思っています。水曜日はカンボジアの人、木曜日はアメリカの人だよ。」と子ども達に話したら、子ども達は大喜び。いつも踊っているダンスを披露したり、インタビューをしたり、ゲームを行ったりして、きらきらと目を輝かせた。お昼休みには自分達から遊びに誘い、だるまさんがころんだやおにごっこをして楽しんで笑顔が光る交流となった。

第4次 「カンボジアってどんな国」

カンボジアでの記録写真、映像、カンボジア B o x やフィリピン B o x の実物資料を提示し、カンボジアの文化や現状を学んだ。主に15分モジュールを単位時間として授業を構成した。子ども達の主な感想は以下の通りである。遊びについて・サイって難しいけど楽しいよ。みんなでやろうよ。縄跳びやサッカーが好きなのは同じだね。学校について・暗くて目が悪くならないかな。電気がないね。70人でぎゅうぎゅうだね。たいへんだよ。サンダルをサッカーゴールの代わりにして工夫しているんだね。アンコールワットやバイヨンの遺跡について・これは人が作ったの？石を彫っていっぱい飾りを作ったのはすごいな。

環境についての授業は以下の通りであった。

(1) ねらい

ごみ山で働く人々の写真でフォトラングエージを行うことを通して、ごみを拾ってより分けしながら生計を立てている人がいることを知るとともに、日本でのごみの分別の大切さについて気付くことができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	児童の反応	資料・準備物
導入	・カンボジアでのマスクの使われ方のクイズの答えを考える。 ・バイクを運転している時に使うことを知る。交通事情について学ぶ。	・風邪をひいた時じゃないのかな。 ・バイクから出るガスが臭くて使われているのか。本当にバイクが多いね。 ・えっ、5人乗りしているよ。タンスまではこんでいるよ。事故は起きないのかな。	・マスク ・交通事情の写っている写真

展 開	・ごみ山の写真を見て気付くことを発表し合う。	・先生が悲しそうな顔をしているよ。 ・周り中ごみだらけだね。 ・みんな何をしているのかな。 ・ごみをひろっているんじゃないかな。 ・これは家かな、小屋かな。 ・なんでごみを拾っているの。臭くないの。 ・前にテレビで見た時は、新聞をリサイクルしていたよ。分けているんじゃないかな。	・ごみ山の写真 ・DVD映像
ま と め	・日本のごみ処理について考える。	・日本にはこんなごみだらけの所はないよ。ごみ処理場があるもん。 ・カンボジアのごみの所で働く人は、そうやってお金を稼いでいるのか。 ・先生が子どもの頃は東京にあったんだって。 ・ペットボトルとかカンといろいろ分けて捨てているよ。 ・分けて捨てないと大変なんだね。ごみだらけになるよ。	

第5次 「戦争と平和 戦争ってこわいな」

(1) ねらい

現在もなお戦争の影響の残るカンボジアの状況を知ったり、日本にも戦争をしていた時代に多くの悲しいできごとがあったことを知ったりすることを通して、平和の大切さと命の尊さについて考える。

(2) 展開

	学習活動	児童の反応	資料・準備物
導 入	・「日本は平和だと思う」についてフォーコーナーを行うことを通して、戦争と平和についての意見交換を行う。	(実際は3コーナーで行った) <u>そう思う</u> ・食べ物がたくさんある。 ・カンボジアに比べて家やお店がたくさんある。 ・戦争がない。 <u>そう思わない</u> ・雷や地震で死ぬ人がいる。 ・遊びすぎると怒られる。 <u>どちらでもある。</u> ・戦争とかはないけど、雨や地震で死ぬ人がいるから。	

展 開	- 地雷で足を失った少年の写真でフォトランゲージを行う。 - 絵本「地雷ではなく花をください①②」の読み聞かせを聞く。 - カンボジアの年齢別人口の割合を知ったりすることで、現在も続く困った状況を理解する。 ※ 人材がいない。親がいない。お金をかせげない。小学校へ行けない。行っても続けられない等。	- なんで足がないの。 - この子がかawaiiそうだ。 - 悲しそうな目をしているよ。 - なんで地雷を埋めるの。 - こわくて歩けないよ。 - 日本に地雷がないのはいいけど、世界にはこんなにあるんだ。 - 僕のお母さんやお父さんが死んじゃったら、お墓の前からずっと離れないでずっと泣いているよ。 - 考えただけでも涙が出てくるよ。 - 学校へ行けないのはつまらないよ。頭もよくならないよ。 - お金がないと食べられないよ。服もゲームも買えないよ。	- 地雷で足を失った少年の写真 - アキラ地雷博物館や戦争博物館での写真 - 絵本「地雷ではなく花をください①②」
ま と め	本「かわいそうなぞう」を聞き、日本にも戦争を行っていた時代があることを知る。その後、戦争と平和についてのブックトークを行う。	- ぞうは何もわるいことしていないのかawaiiそうだ。 - げいをすれば食べさせてもらえると思っていたんだね。 - お父さんのお父さんも戦争で亡くなったんだよ。 - なんで戦争をするのかな。	本「かわいそうなぞう」など

第6次 「大切なものは何ですか」

(1) ねらい

戦争の影響や貧困で苦しむカンボジアの人々の夢や大切なものを知ることを通して、自分自身を見つめ、自分の夢や大切なものを明らかにして、自分もたくましく生きていこうとする心を育むとともに、人の大切な物を大切にしようとする態度を養う。

(2) 展開 (※前時に夢をテーマとした授業を行った。 本時のテーマは大切なもの)

	学習活動	児童の反応	資料・準備物
導 入	担任が出会って来たカンボジアの人達の大切なものを知る。	- 勉強が大切だという人が多いね。 - 学校に行けないのかawaiiそうだ。早く行けるようになるといいね。 - お医者さんになって、湖に住む人たちを診てあげたいのはとってもいいことだと思う。	- カンボジアで出会った人達の写真 - カンボジアでのメモ
展 開	- 自分自身を見つめ、今の大切なものを明らかにし、絵に表す。 - 大切なものをクラスで紹介し合う。	- 私の大切なものは家族です。理由は一人だと寂しいからです。僕も家族です。おじいちゃんやお母さんに会えなくなりたくないからです。 - 僕の大切なものは友達です。優しくしてくれるから、一番大事だと思った。 - 私の大切なものは地球です。地球がないと私達も生き物も生きられないからです。 - 僕の大切なものは水と食べ物です。ないと死んでしまうかもしれないからです。	

ま と め	・本「あなたの大切なものはなんですか」の読み聞かせを聞く。	・僕もお友だちの大切なものを借りるときは大切に使うよ。 ・お家に帰ったらお手伝いをして、家族の人に喜んでもらおう。	小学館写真集「あなたの大切なものはなんですか」
-------------	-------------------------------	--	-------------------------

第7次 「カンボジアで日本人が活躍している」

国立母子保健センターで撮影した3枚の写真（①赤ちゃんを抱っこするお母さん、②カンボジアと日本の国旗が合わさった旗、③センターで働く日本人の看護婦さん）を児童に提示し、気付いたことを発表させた。児童からは以下のような反応があった。①について。・お母さんが笑顔です。赤ちゃんがいて嬉しそう。かわいいでしょうと言っているみたい。赤ちゃんも笑っている。②について。3つの旗があり、右は日本、左はカンボジア、真ん中はアンコールワットと日本の赤丸がくっついて、混ざっているみたい。③について。多分病院で、この人達はお医者さんかもしれない。

その後、教師から、③の女性は日本からカンボジアに病院の仕事を手伝いに行っている人であることを伝えた。その理由として、戦争の悪影響がまだ続いていて、医者数が少ないこと、専門的なことを教えられる人が少ないことを伝えた。また、病院だけではなく、日本人がお手伝いしていることに、農村での仕事、橋の建設、織物工場などがあることを写真や実物資料を提示しながら伝えた。

児童の感想は以下の通りであった。日本の人が歯の磨き方やお米の作り方やいろいろ教えてあげて、カンボジアの人も喜ぶと思います。日本の人がカンボジアに行っていてびっくりしました。私も是非行きたいです。日本の人がカンボジアの人を助けていることを知って驚きました。カンボジアと日本は仲間みたいだと思いました。日本の人は親切だなと思いました。

第8次 「つながりと発信」

子ども達は自分達でもできることとして、次の2つのことに取り組んだ。

- ・ユニセフによる募金に協力すること。
- ・カンボジアについての新聞作りを行い、身の回りの人に発信する。

新聞は以下のような記事であった。医者になりたいというカンボジアの人のことが分かりました。私も夢と自分の大切な物を大切にしたいです。僕もカンボジアに行ってお手伝いをしたいです。カンボジアの人は地雷が埋まっているのが大変だと分かった。日本は戦争をしないでほしいです。等々。

4 実践の振り返り

授業を行う前は、日本と外国の区別もつかない子も多かったが、この実践を通して、外国についての興味が高く感じられるようになった。自分から図書館で借りてきたり、家で見た外国のテレビの話が話題になったりした。外国のことをもっと知りたいと子ども達は言っている。また、一方では、外国と比べることによって日本を見つめ直したり、自分について考えたりする姿が見られた。

戦争については、子ども達はテレビでみるニュースやゲームの中でのことと考えていたようだが、授業で学び考えることを通して、戦争の怖さ、今も戦争の影響でかわいそうな現状にある人々がいることを知ったり、戦争がおきてほしくないという願いをもったりした。また、外国の人ともっと仲良くなりたいという気持ちをもっている。

夢や大切なものについての授業では、授業前には自分の夢や大切なものについて考えことがない子どもも自分自身を見つめることができた。それは将来に向かって生きていこうとする子ども達の支えの1つになることを期待している。また、友達の大きなものを自分も大切にしようとする感想もあり、仲よく共に生きていこうとする気持ちが感じられた。

第7次を行ったことにより、自分もお手伝いしたいという感想をもった子ども達の気持ちをクラスに広げることができた。そして、第8次の「つながりと発信」では、低学年の自分達でもできることを知り、新聞作りでは生き生きと活動する姿が見られた。

5 中国での授業 「大切なものは何ですか。」

- (1) 参加児童 中国の北京市 和平里第四小学校の5年生 50人
- (2) 実際の授業の様子

「中国の子ども達と日本の子ども達との心の交流をしたい。」

そう思って、北京市の小学校を訪れた。5年生の教室の戸を開けると、子ども達一人一人の顔から授業への期待感がきらきら光る眩しさのように表れてるのを感じた。熱心な子ども達のおかげで、子ども達と一緒にあって授業を作り上げることに努められた。

導入で日本の子ども達の活動を簡単に紹介した後、日本の小学校の我がクラスの子子ども達から描いてもらっていた「大切なもの」とその理由を次々に紹介した。中国の子ども達はとても興味をもって熱心に聞いてくれた。ひとしきり紹介した後、こう尋ねた。「あなたの大切なものは何ですか。」

家族、親友、クラスメート、命、水、視力、心、ポケモン、パソコン等など中国の子ども達が大切にしているものを教えてもらった。一人一人の発表の後大きな拍手が湧き上がった。最後に、本の読み聞かせをした。本の中から以下の内容を伝えた。

「あなたの大切なものは何ですか。あなたの目の前にいる人の大切なものは何ですか。あなたの近くにいる人の大切なものは何ですか。あなたの遠くにいる人の大切なものは何ですか。その全てを大切に思ってください。きっと幸せな世界になれるでしょう。」

私は中国の子ども達の大切なものを、日本の子ども達に紹介することをしっかりと約束し、授業を終えた。大勢の子ども達が寄って来て、サインを求めたり、授業の後片付けの手伝いをしてくれたりした。素晴らしい時間をすてきな子ども達と過ごすことができた。

6 インドでの活動 「ドッジボール授業 ・ 大切なものは何ですか。」

(1) ドッジボールの授業について

- ①参加児童 インドのビジャカパトナムの小学生3年生～中学2年生 約60人
- ②準備した物 ラインカー（日本から持参 使用後にプレゼントした）
ボール2個、空気入れ（同上）
石灰（ラインを引いた 現地の物を使用）

③実際の授業の様子と感想

元気のいいあいさつから授業が始まった。今日はドッジボールを行うことを伝えた。子供たちはドッジボールをしたことがなく、興味深々の様子だった。チーム分けをするために2人組になり、グー、チョキで決めた。各チームに分かれ、それぞれのチームから「やるぞ。」という意欲が感じられた。次に、ドッジボールのルールの説明を行った。日本でもそうだが、言葉の説明だけでは分かりにくかった。コート図を書いた紙などを用意していけばよかった。

1回戦を行った。子供たちがいきいきと動く。ボールから逃げたり、ボールを思いっきり投げたりし、とても楽しそうであった。ドッジボールの運動のもつ魅力を改めて感じた。どの外野に行けばいいのか迷っている児童など、ルールについては試合を行う途中途中で教えていった。試合終了後、内野の子供たちだけ並ぼうと話したが、外野の子供たちも内野に混じってきたため、勝敗が分からなくなってしまった。再度勝敗の付け方を説明し、二回戦も楽しく行ったが、終了後、外野の子供たちがどうしても内野にもどって整列するため、勝敗がつけられなかった。三回戦を始める前に、大きなジェスチャーを交え、試合終了時は全員その場を動かずにその場で座る練習を行った。全員の児童が理解できたところで、三回戦を行った。試合終了のロングホイッスルを聞き、全児童が一斉にその場にしゃがんだ。内野の子供たちだけ整列し、勝敗の報告をした。18対19でチョキチームの勝ちだった。喜ぶチョキチーム。

今回でドッジボールのやり方が理解できたか聞いたら、全員が手を挙げた。ドッジボールが楽しかったか聞いたら、負けたグーチームの子供たちも含め全員が手を挙げたので、嬉しかった。みんなで楽しむためにドッジボールをこれからもしてほしいことを伝え、全員が握手をして授業を終った。

(2) 山岳地の少数民族の人や子供たちの気持ち「あなたの大切なものは何ですか。」

①少数民族の人たちについて

ムニグダで出会った少数民族の主婦2人に「一番大切なものは何か」尋ねた。「大切なものは農業と田んぼ、畑、そこからとれる食料と教えてくれた。訳は、農業で取れた穀物が私たち家族、仲間を支えてくれるから。」であった。

②2人の小学生について

A君は全校朝会時は号令をかけるなど、高学年のリーダー格の男子。インドでは4年前からプラスチックのコップやペットボトルが出始め、ゴミにもなり、集めることが仕事としてできるようになった。A君はいこいの村に来る前は駅の周りでペットボトルを自分で集めて生活する子供だった。もう一人の男の子B君（3年生）はよくA君と一緒にいた。迎えるバスではこの2人と話し、学校についてからは、クリケットを一緒に楽しんだ。この3年生の男の子はエイズに感染してしまっていた。この学校全校児童90人のうち約30人がエイズに感染していると聞いた。でも、子供たちはだれが感染しているか分かるが、みんな仲良く同じく一緒に生活している。

A君とB君の夢は医者になること。この夢を大切にしていきたいと教えてくれた。これを聞いた時、私は胸がぐっとなり、理由を尋ねることができなくなった。彼らは、医者になることでエイズで苦しんでいる友達や回りの人や自分の命を大切にしたいと考えているのではないだろうか。

(3) 日本に帰ってからの今後の授業の計画

インドで体験したことや感じたことを日本の子ども達に紹介し、インドについて知ったり、大切なことを考えたりしていく予定でいる。

授業は、以下の流れで計画している。

今後の授業

①絵ハガキランゲージ

- ・先生から届いたインドの絵ハガキからどんなことを感じるかな。

※フォトランゲージ形式の発表

②インドってどんなところ？

- ・先生がインドで見つけたこと、驚いたこと、面白かったこと、日本と違うことなどのインドクイズをして、楽しみながら、インドのことを知ろう。

③日本は豊かな国だと思いますか。

- ・このことについてみんなの意見を聞き合おう。

※豊かだと思う。まあ豊かだと思う。豊かではないと思う。のスリーコーナー式の意見の紹介の仕方をを行う。

④大切なものは何ですか。

- ・A君やB君の抱えている問題と大切にしている夢を紹介する。
- ・クラスの子供一人一人に「自分の一番大切なもの」を考えて紹介してもらう。
- ・小学館写真集「あなたの大切なものはなんですか」を読み、感想を発表し合う。

